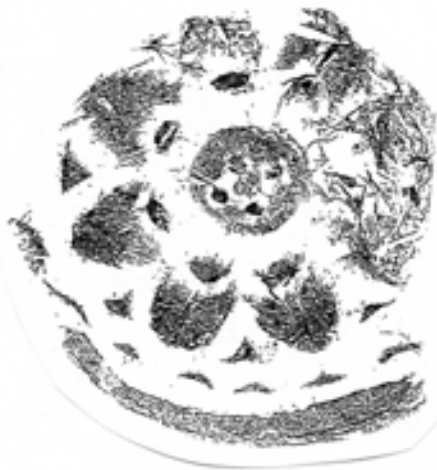


平成19年度

台渡里廢寺跡長者山地区

— 範圍確認調査現地説明会資料Ⅱ —



2008年2月10日(日)

13:00~

14:30~

水戸市教育委員会

<調査の概要>

調査名 台渡里遺跡群第38次調査（重要史跡範囲確認調査）
調査地域 水戸市渡里町3071-4外
調査対象 台渡里廃寺跡長者山地区（含No.024アラヤ遺跡範囲内）
調査目的 史跡範囲（那賀郡衙正倉院推定地）の確定
調査主体 水戸市教育委員会
調査期間 2007年11月12日～2008年2月18日（予定）
調査面積 420㎡

<調査の経過>

台渡里廃寺跡（だいわたりはいじあと）は、那珂川右岸の標高31～34mの台地上に位置する古代常陸国那賀郡の役所と役所に関連する寺院等が複合した遺跡です。北から長者山（ちょうじゃやま）地区、観音堂山（かんのんどうやま）地区、南方（なんぼう）地区に分けられており、平成20年1月現在は、観音堂山地区と南方地区が国の史跡に、長者山地区の一部が県の史跡に指定されています。

長者山地区では、戦前に行われた高井梯三郎（たかいていざぶろう）氏の調査（第3次調査）や昭和48年の水戸市教育委員会の調査（第7次調査）では、瓦葺きの礎石建物跡が4棟みつかり、地名や人名を記した文字瓦が多数出土しました。これらの知見により当時从那賀郡衙の正倉院（租税として集めた穀物を収納しておく倉庫群）といわれていました。

昨年度の第30次調査において、県指定史跡を含む「台渡里廃寺跡長者山地区」の確認調査を実施しました。そこでは掘り込み地業を伴う同じ規模の礎石建物が整然と立ち並び、北側の台地縁を東北東から西北西に向かって走る区画溝が存在することが明らかとなりました。こうした状況から、水戸市教育委員会では本跡を那賀郡衙正倉院と推定し、これが現在の県指定範囲を越えて拡がることを予測しました。今年度の調査は、昨年度の調査を受けて、南側および西側の区画溝を特定、すなわち史跡範囲の確定を目指して行いました。

<調査の成果>

今回得られた新たな調査成果について、以下にその概略を示しますが、遺構番号は調査中の暫定的な番号（仮番号）ですので、今後変更する可能性があります。

(1) 南側の大区画溝

第4トレンチでは、断面逆台形の古代溝 T4-SD001 が確認されました。これは幅2m前後と大きなもので、昨年度の調査で確認した北側区画溝ともよく似ています。確認した第4トレンチでは、竪穴住居跡 T4-SI001（7世紀後半）を壊して構築されています。溝の中からは、土師器・須恵器・瓦が多く出土しました。また第4トレンチの東側にある市道を改良工事する際にも確認されており、そのときには覆土から炭化米が出土しています。この溝の存在により、正倉院の範囲が南北約185mであることが判明しました。東西については現在もまだ確認できておりません。

(2) 古代の区画溝

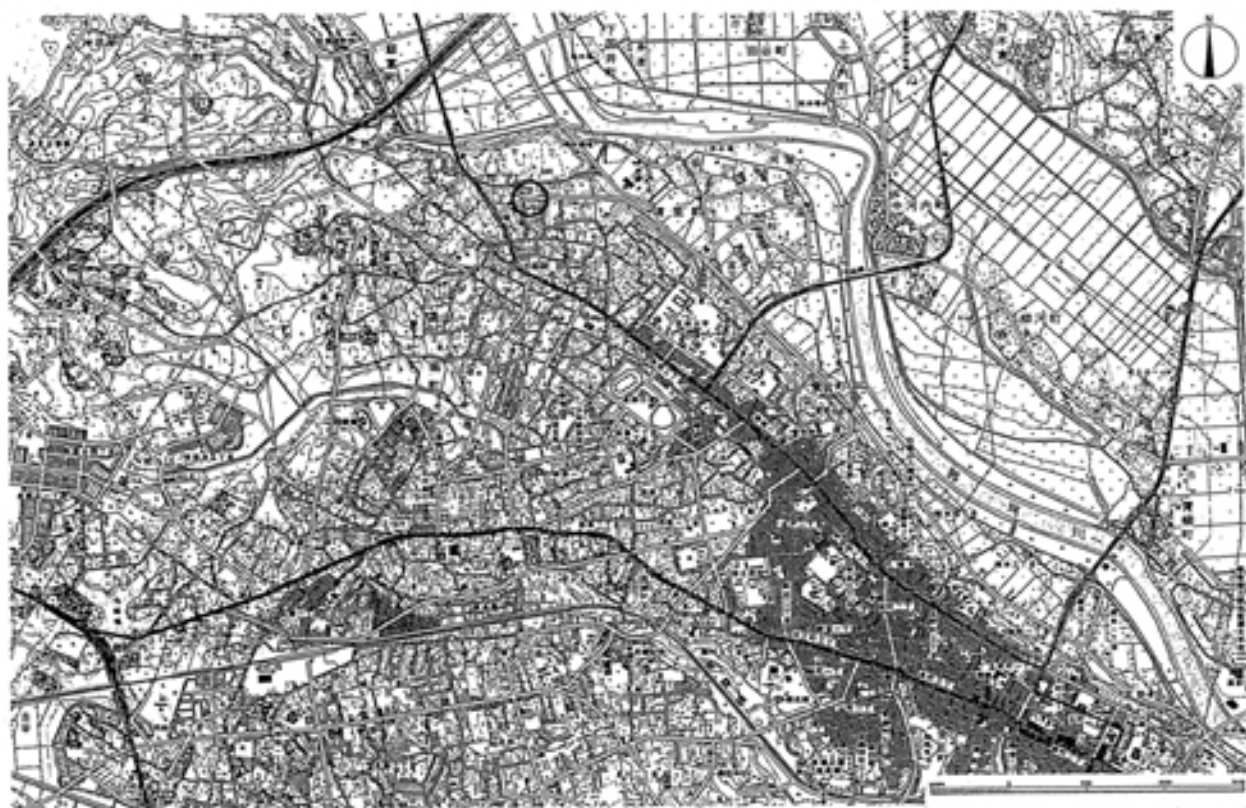
正倉院の区画溝のほかに、幅 1m ほどの古代溝が、第 1 トレンチ (T1-SD002) および第 3 トレンチ (T3-SD001) で確認されました。小さいながらも断面逆台形で、形状は第 4 トレンチで確認された区画溝によく似ています。やはり 7 世紀後半の竪穴住居跡 T1-SI001 および T3-SI001 を壊して構築されています。これらの溝の中からは、少量の土師器・須恵器が出土したのみで、古代瓦の出土はみられませんでした。また第 3 トレンチでは、掘立柱建物跡 T3-SB001 によって溝 T3-SD001 が壊されていることがわかっています。T3-SB001 の上面からは古代瓦が突き刺さって出土しています。以上のことから、具体的には明らかにできませんが、さきほどの大区画溝 T4-SD001 や掘立柱建物跡 T3-SB001 よりも古く、7 世紀後半の竪穴住居跡よりも新しいのではないかと考えられます。これらの溝は、何らかの区画施設と考えられますが、詳細はわかりません。ただ覆土の状況を見ると人為的に堆積している様子がうかがえ、その機能を失った後、何らかの事情で埋め戻された可能性があります。

(3) 七世紀後半の竪穴群

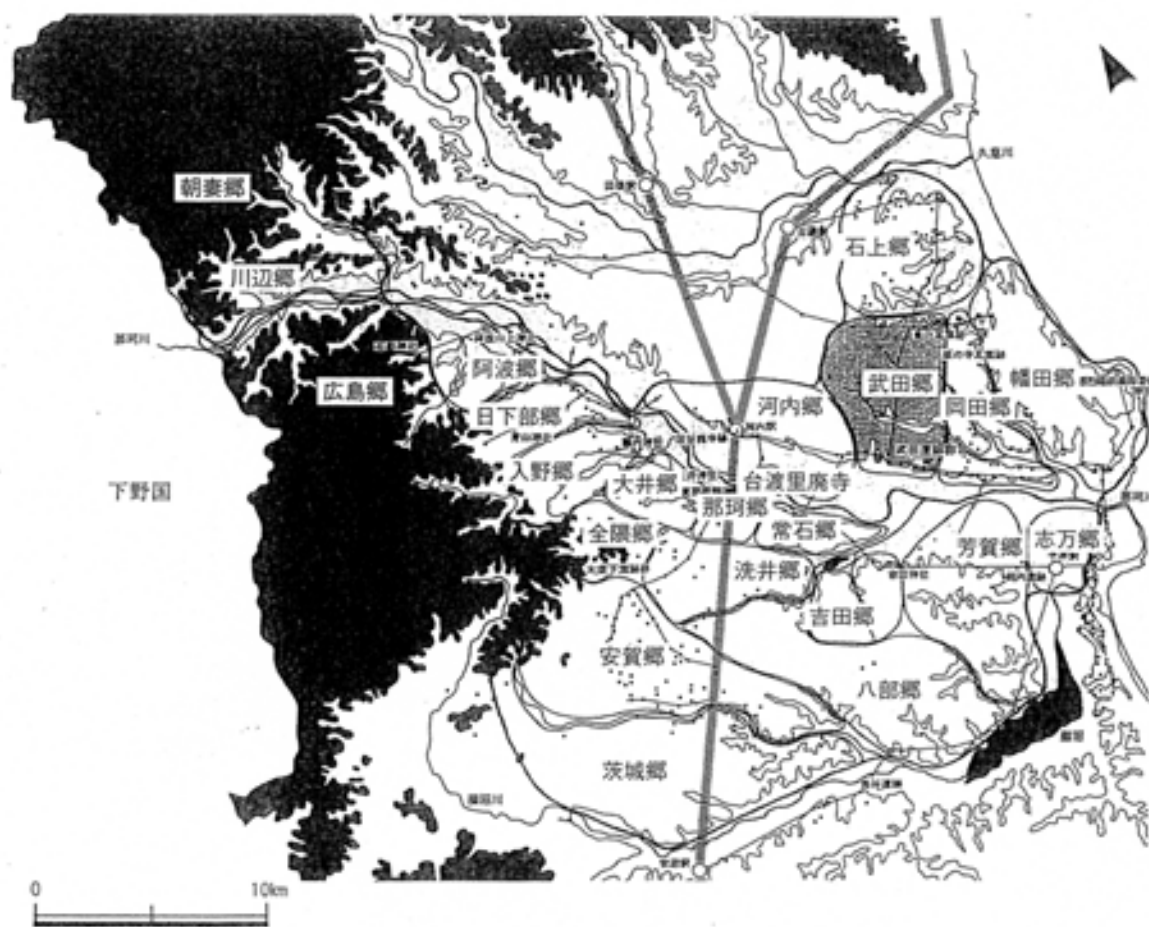
第 1 トレンチ、第 3 トレンチおよび第 4 トレンチでは、竪穴住居跡がそれぞれ 1 軒ずつみつかっています。どれも大小の溝に壊されており、特にカマドの遺存状況の良いものではありませんが、非常に興味深いことを知らせてくれます。まずこれらのうち試みに T3-SI001 と T4-SI001 を掘り込んで調査を進めた結果、その出土土器からいずれも 7 世紀後半のものであることがわかりました。竪穴住居跡の規模や形状、主軸方向から T1-SI001 も同時期と考えてよさそうです。同じ時代のものは、南方地区や台渡里遺跡 (宿屋敷地区)、アラヤ遺跡 (長者山荘地点) などでもみつかっております。ところが、台渡里の遺跡群では、これに先立つ 7 世紀前半以前の、すなわち古墳時代後期以前のカマドをもつ竪穴住居跡 (遺物も含めて) は今のところみつかっていません。つまり 7 世紀後半代に突如として竪穴住居跡が出現してきていることがわかります。そしてこれらの竪穴住居跡からは、土器のほかにしばしば釘などの鉄製品や鉄滓 (かなくそ) が多く出土し、覆土内に焼土が大量に散らばるケースが多いのです。これらは鍛冶工房跡の可能性もあるでしょう。7 世紀後半といえば、観音堂山地区に最初の寺院伽藍が形成される時期かもしれないかはその直前です。もしかしたら寺院造営と何らかの関係があるのかもしれない。

<まとめ>

今回得られた成果の中で最も大きなものは、やはり幅 2m を超える逆台形断面の区画溝の確認ができたことです。このことにより、那珂川に面した台地の北端に南北約 185m をも占有して郡衙の正倉院を造営していたことがわかりました。さらに正倉院造営以前には 7 世紀後半の竪穴住居跡が群をなして営まれていた様子も次第に明らかになりつつあります。しかし未だ正倉院の東西の範囲・規模が不明です。これまでの調査成果をみていますと、南北と同等かもしれないかそれ以上の規模を考える必要がありますが、いずれにせよ来年度以降の調査によって明らかにしなければなりません。水戸市教育委員会では、今後も市の重要史跡である台渡里廃寺跡 (遺跡群) の全体像を解明すべく調査を続けてまいります。



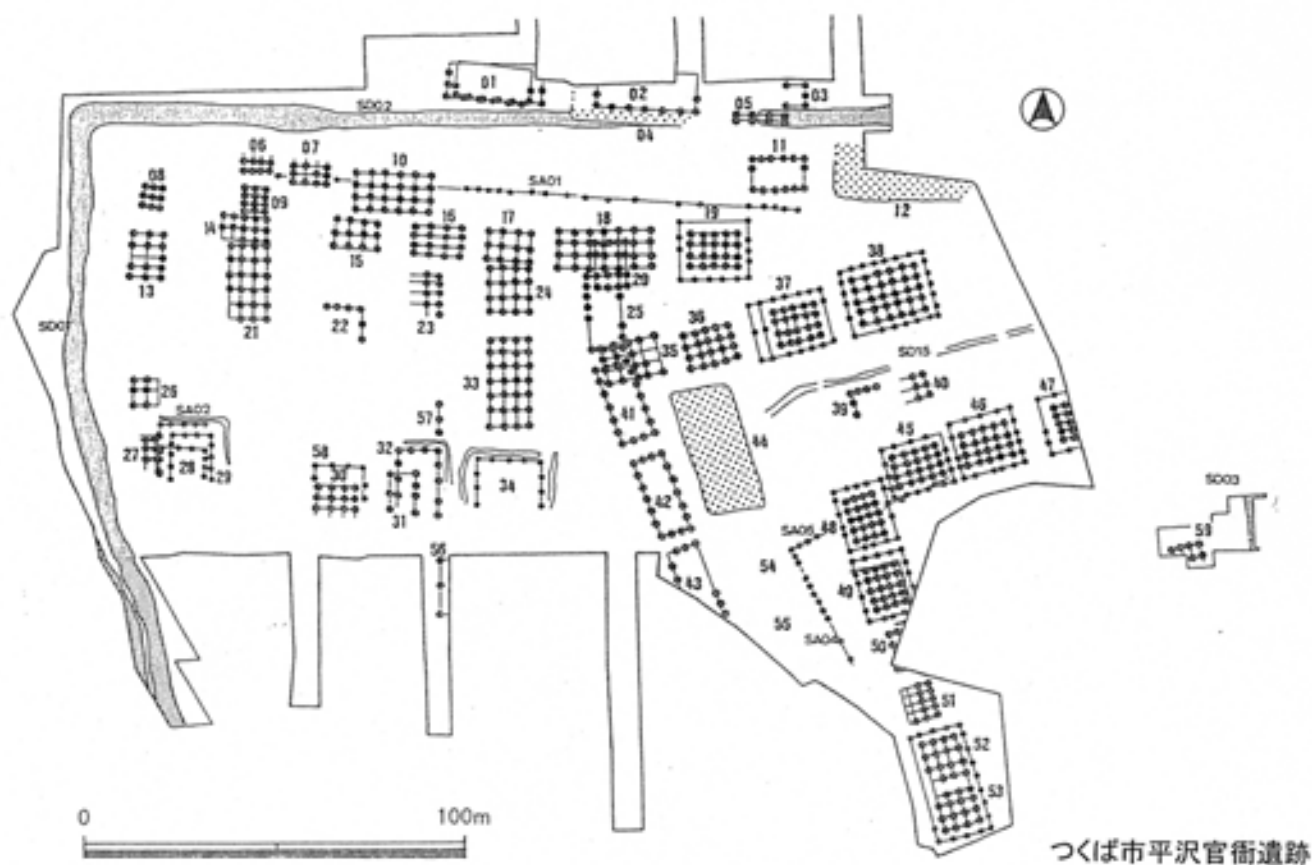
第1図 台波里廃寺跡の位置(1:50,000)



第2図 奈良・平安時代の那賀郡の郷と遺跡の分布

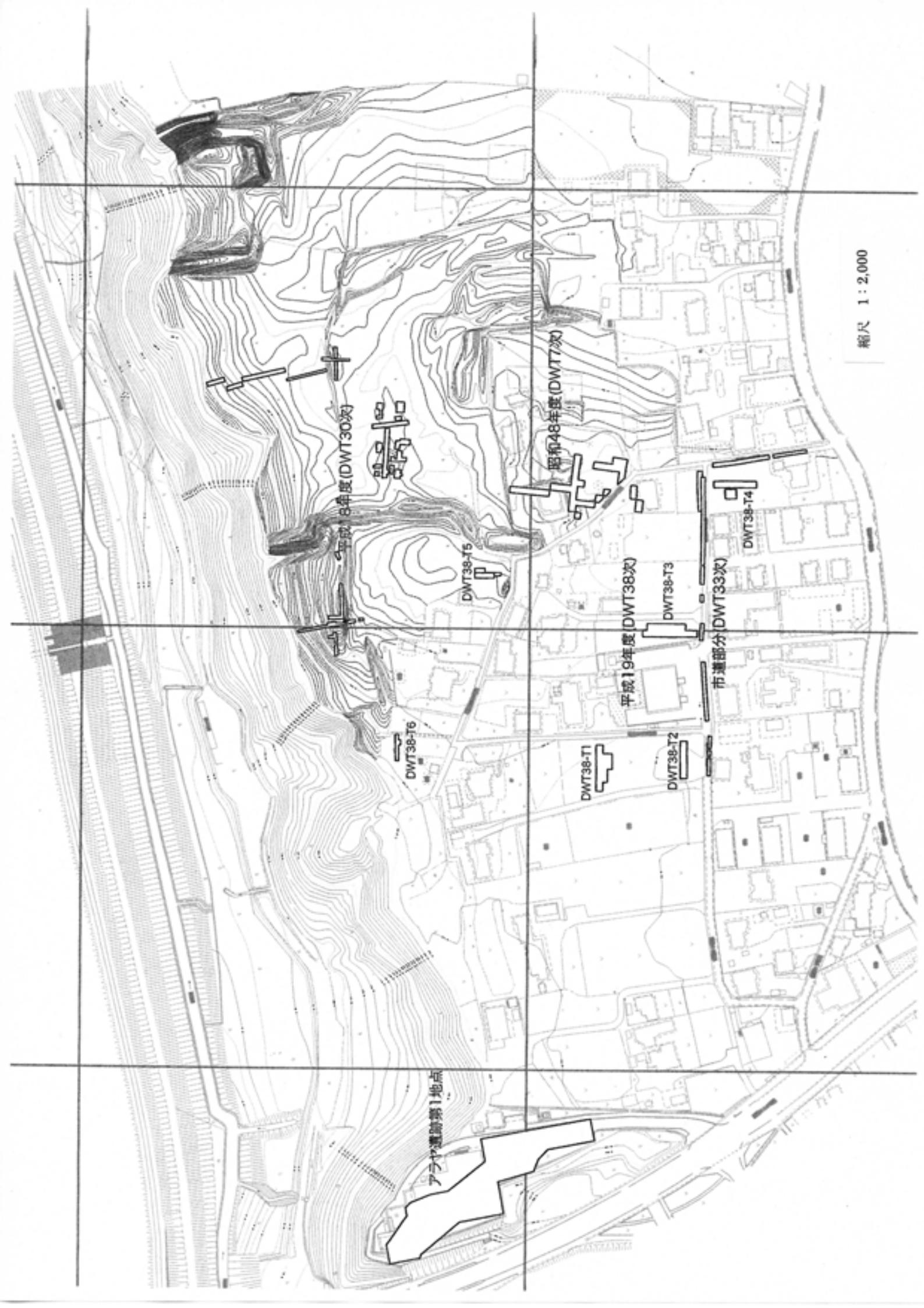


筑西市新治郡衙跡



つくば市平沢官衙遺跡

第3図 茨城県内の郡衙正倉院の事例



縮尺 1 : 2,000



平成18年度(DWT30次)

DWT38-T6

DWT38-T5

昭和48年度(DWT17次)

平成19年度(DWT38次)

DWT38-T1

DWT38-T3

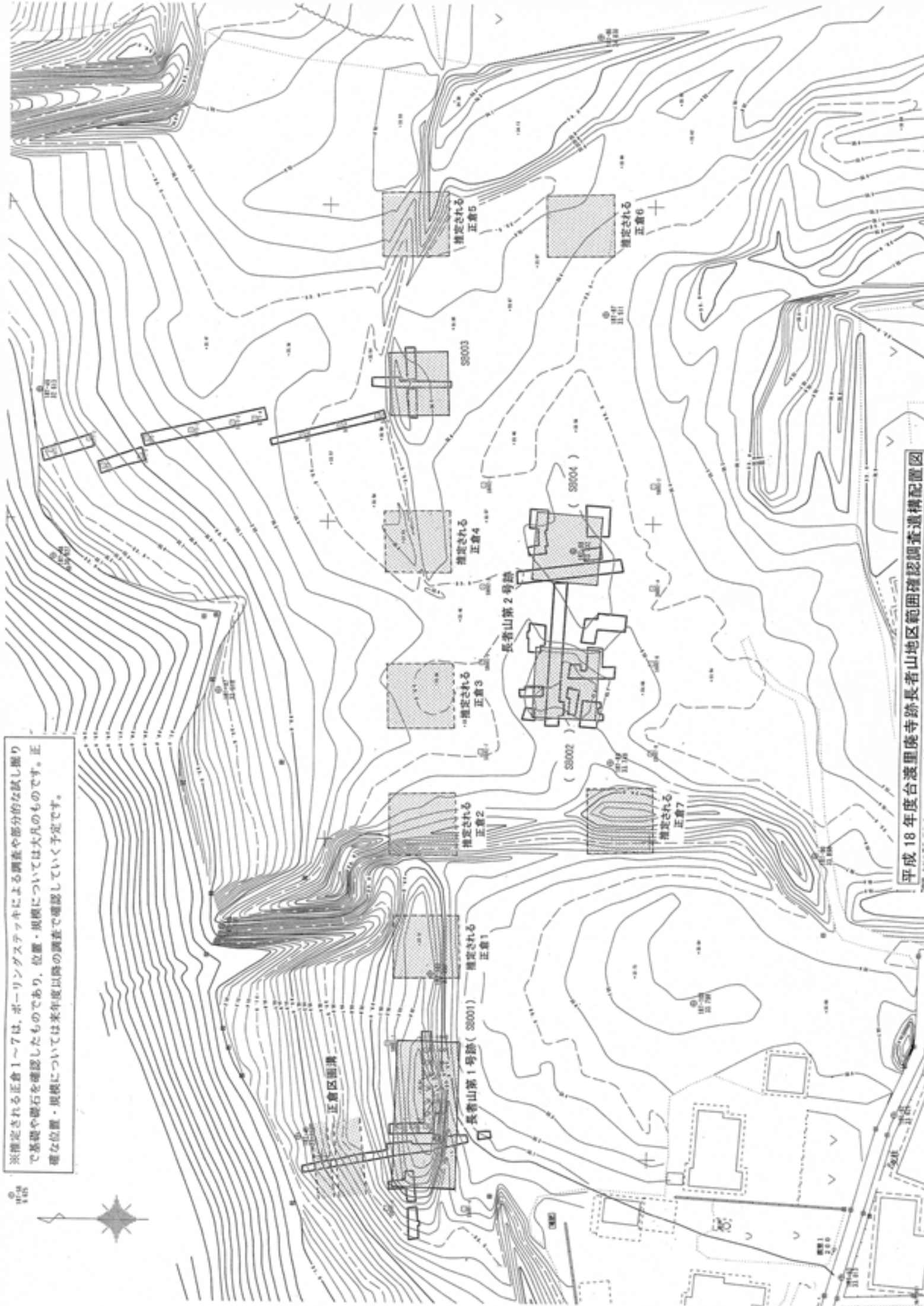
DWT38-T2

市道部分(DWT33次)

DWT38-T4

縮尺 1:1,000

※推定される正倉1～7は、ボーリングステッキによる調査や部分的な試し掘りで基礎や礎石を確認したものであり、位置・規模については大凡のものです。正確な位置・規模については来年度以降の調査で確認していく予定です。



平成18年度台渡里廃寺跡長者山地区範囲確認調査遺構配置図